

経営比較分析表（令和元年度決算）

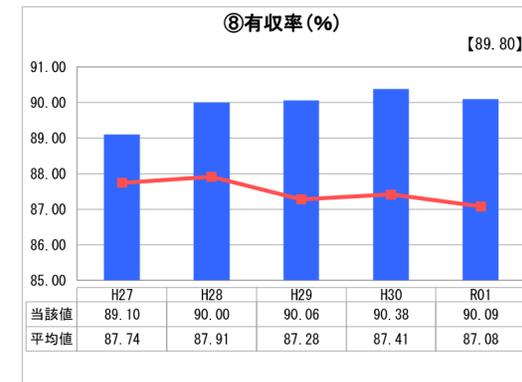
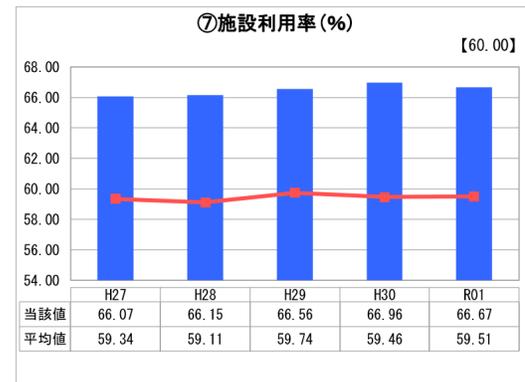
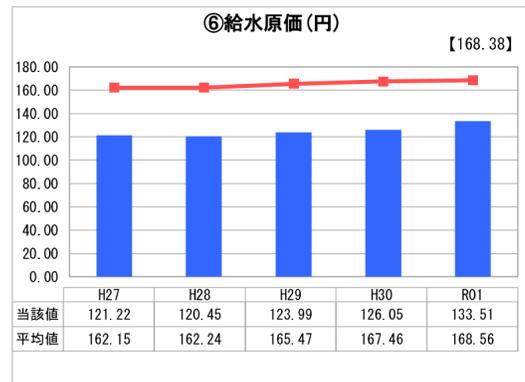
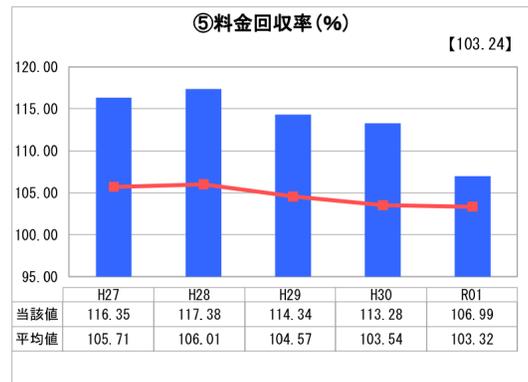
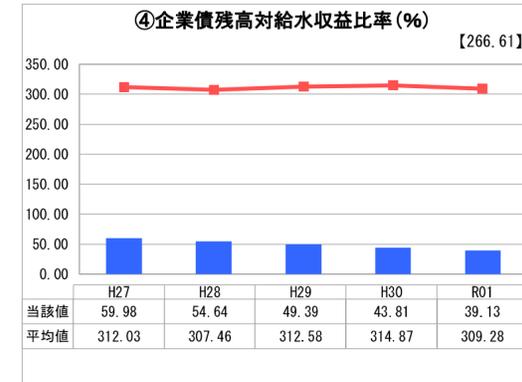
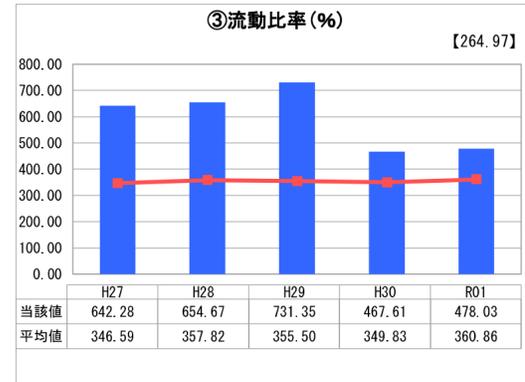
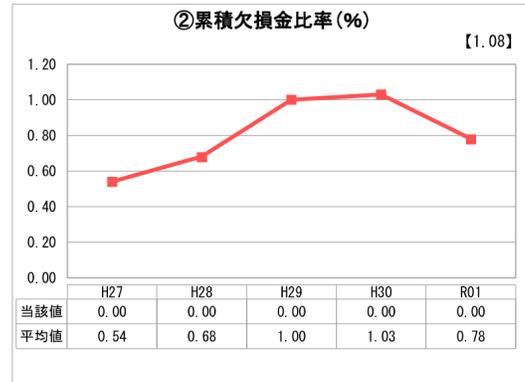
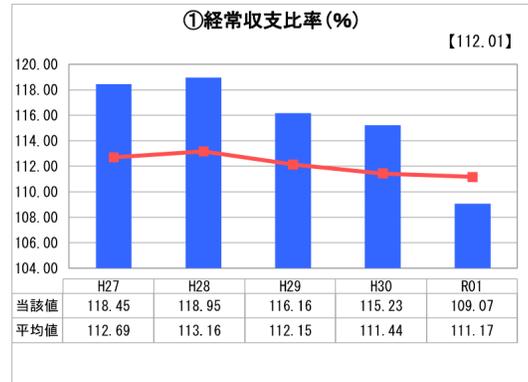
埼玉県 東松山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.77	99.90	1,925	

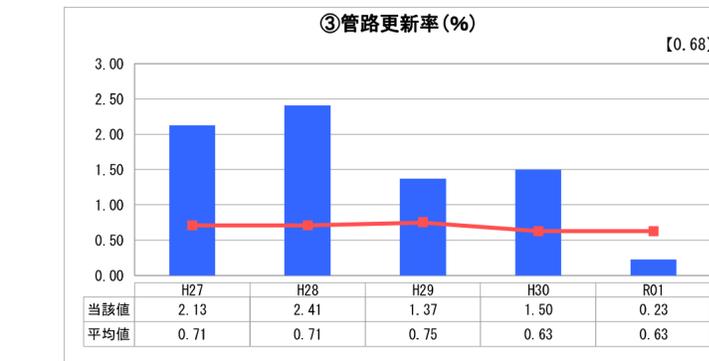
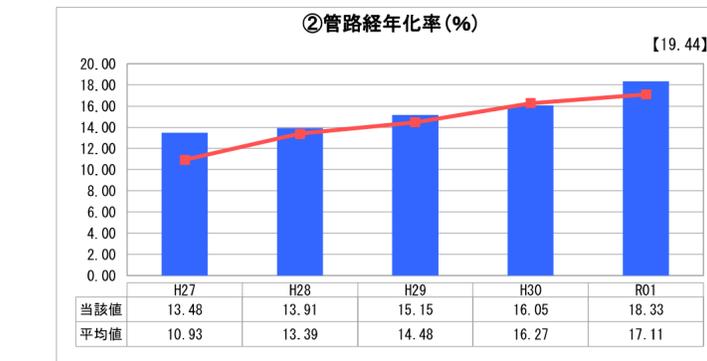
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
90,348	65.35	1,382.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
90,100	65.69	1,371.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
100%を上回っているが、当該年度においては受水費の増加に伴う費用の増加により、類似団体の平均値を下回っている。今後も100%を維持出来るよう努める。

② 累積欠損金比率
該当なし

③ 流動比率
100%を大きく上回っているが、流動資産のうち現金は減少傾向である。

④ 企業債残高対給水収益比率
類似団体の平均値を下回っており、企業債に頼らず事業を行っている。

⑤ 料金回収率
100%を上回っており、類似団体の平均値を上回っているが、平成28年度以降減少傾向である。水道ビジョンでは将来的な料金改定を検討している。

⑥ 給水原価
類似団体の平均値を下回っており、安い原価で給水を行っていることを示しているが、上昇傾向である。

⑦ 施設利用率
類似団体の平均値を上回っている。将来的には人口減少による一日平均配水量が減少することが見込まれるため、適切な施設規模に注視していく。

⑧ 有収率
類似団体及び全国の平均値を上回っている。継続して実施している老朽管更新に因ると考える。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
管路・施設の更新により類似団体の平均値を下回っている。

② 管路経年化率
増加傾向であるため、経営状態を勘案しつつ引き続き管路更新に努める。

③ 管路更新率
類似団体を下回っている。当該年度は、管径の大きい基幹管路の更新であったことが理由に挙げられる。

全体総括

経営の健全性・効率性の分析から、当水道事業は適正な運営を維持していると判断できるものの、令和元年東日本台風での設備の機能停止及び自己水源の取水停止に伴い県水の受水量を増加したため、給水原価の上昇に大きく影響した。加えて経常収支比率・料金回収率は低下傾向にあり、委託料・修繕費の増及び減価償却費等の推移を注視している。老朽化の状況について、当該年度においては更新延長の減少により、管路経年化率の上昇及び管路更新率が減少した。引き続き、更新計画に基づき基幹管路を含む老朽管更新を予定している。

経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県東松山市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	-	ド訓	救感輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
90,348	13,805	第2種該当	7:1	

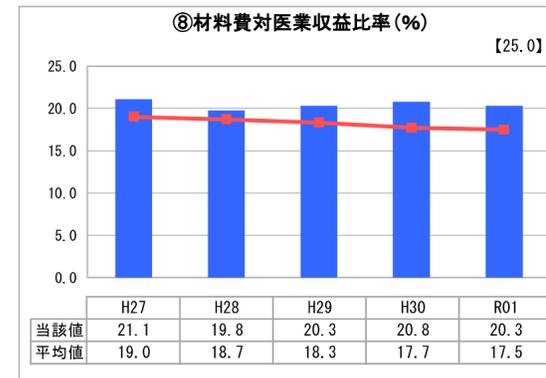
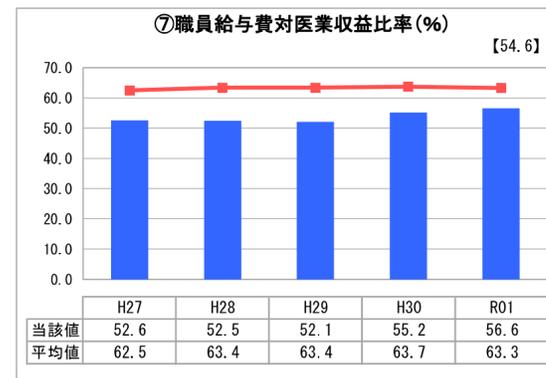
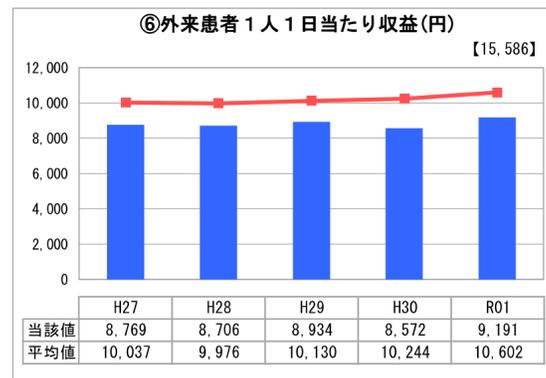
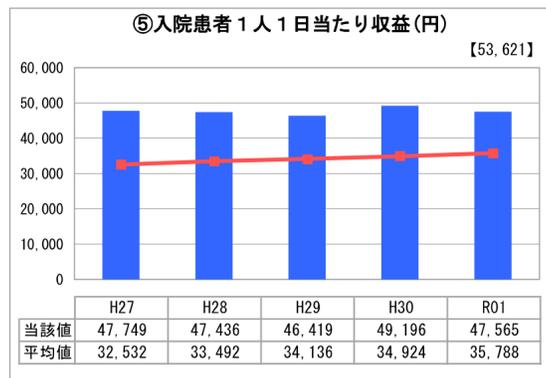
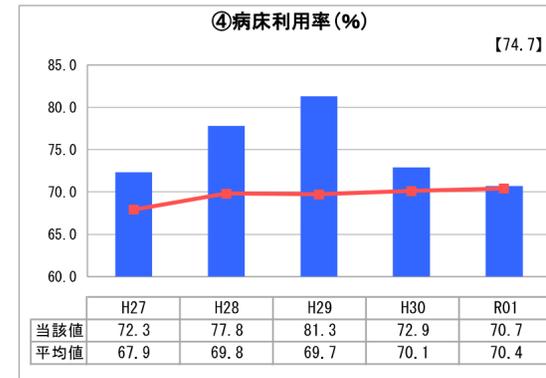
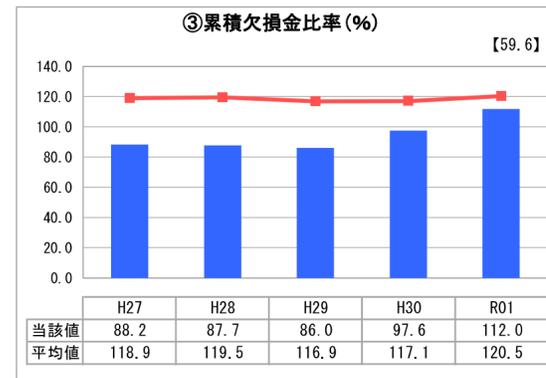
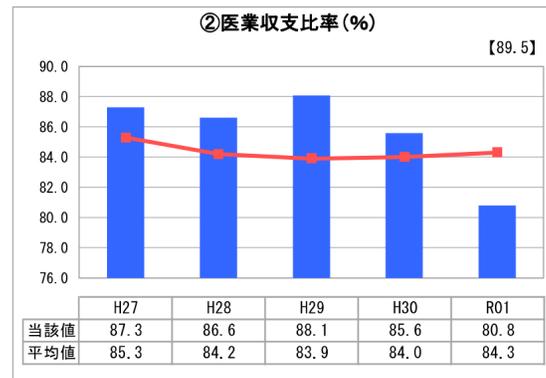
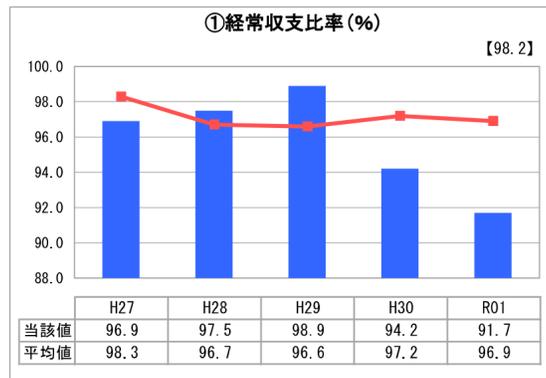
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

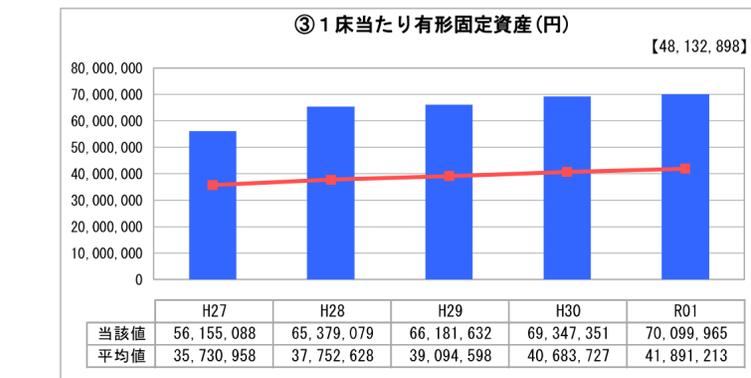
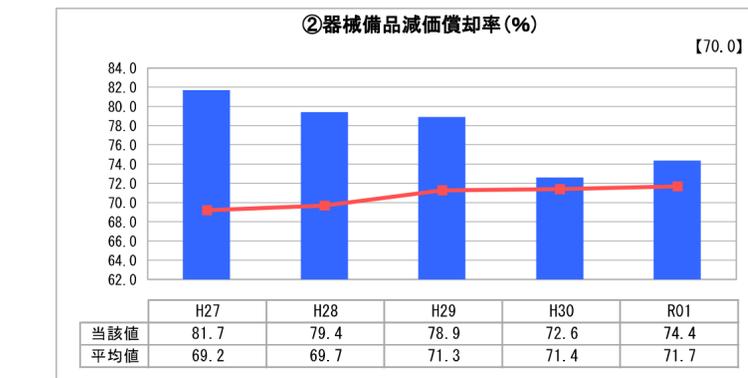
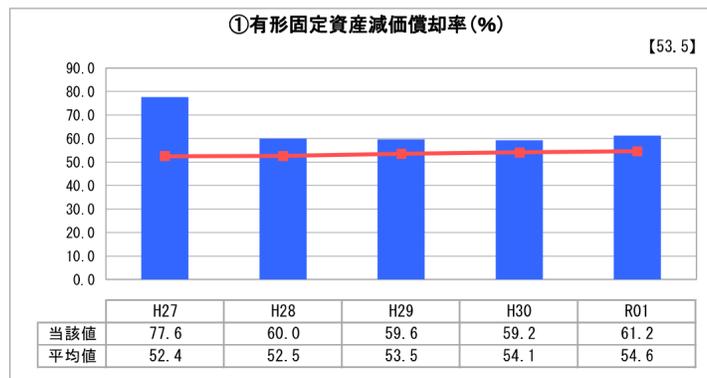
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
110	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	114
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
110	-	110

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

比企地域のほぼ中央に位置しており、12の診療科を有する地域の中核的な医療施設としての役割を担っています。
救急医療機関、感染症指定医療機関及び病院群輪番制病院の認定、指定を受けるなど公立病院としての役割を果たしつつ、地域における医療ニーズに応えられる体制を整備します。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、医業収支比率ともに全国及び類似病院の平均を下回り、前年と比較しても大きく下落しています。病床利用率及び入院患者1人1日当たり収益は類似病院の平均を上回りますが、全国平均と比べると低い結果となり、かつ外来患者1人1日当たり収益はいつれの平均を下回るため、医業収益を増やす改善が必要です。
材料費対医業収益比率については、当院は材料費が高額な整形外科の診療の割合が高いため、類似病院の平均と比べ高くなる傾向にあります。医業収益が減少する中でも、材料費対医業収益比率が前年と比べ改善していることは、経営改善に向けた取り組みの成果と考えます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産及び機械備品の減価償却率は、ともに全国及び類似病院の平均を上回っています。建物・設備関係は、現在大規模修繕を行っており、今後も計画的に実行予定であることから、減価償却率は減少することが見込まれます。併せて、当該大規模修繕により1床当たりの有形固定資産は増加することが見込まれます。
器械備品については、法定耐用年数を超えるものでも、安全性を確保した上で修繕対応できるものは継続して使用し、計画的に更新を行います。
なお、建物関係については、許可病床数よりも広いスペースを確保しており、現許可病床数の1床当たりの有形固定資産は割高になる傾向があります。

全体総括

医業収益が減少し、単年度収支の赤字幅も前年と比べ大きく増加しています。今後は大規模修繕をはじめとした設備投資による減価償却費の増加も見込まれることから、健全な病院経営には費用削減だけでなく増収が必須であると考えます。医業収支比率の下落が著しいことから、特に医業収益について改善が必要と考えます。
現在、外部のコンサルタントを導入した中期経営計画の策定を行っており、計画に基づいた経営改善に病院全体で取り組みます。また医師を増員し、充実した医療体制を確保することで医業収益の増加を図ります。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和元年度決算）

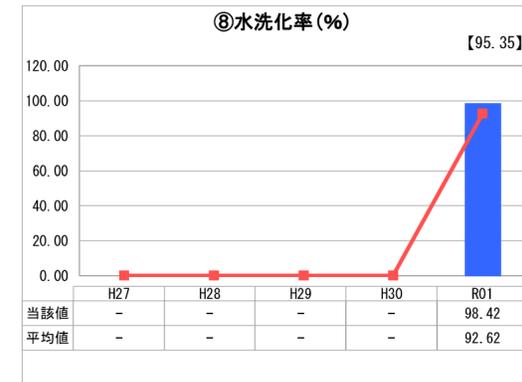
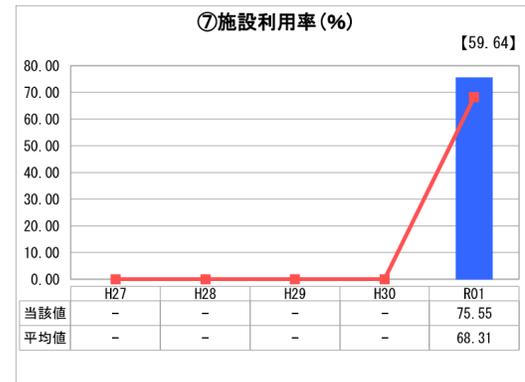
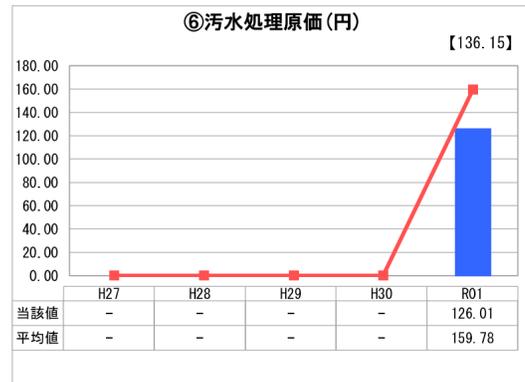
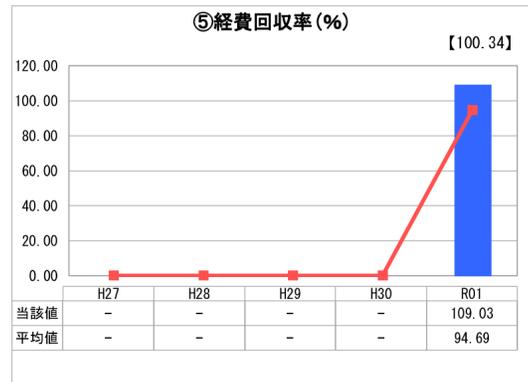
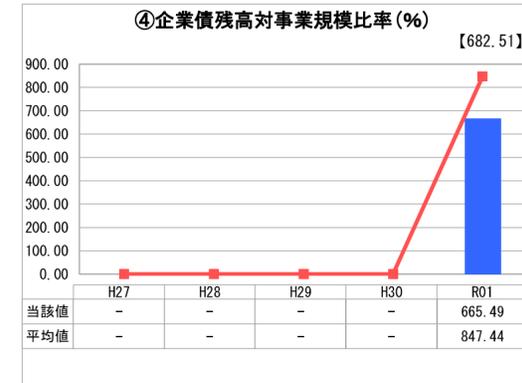
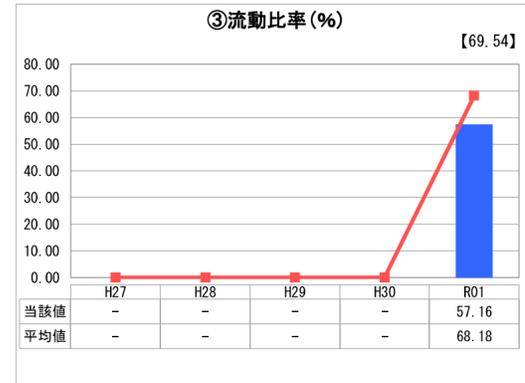
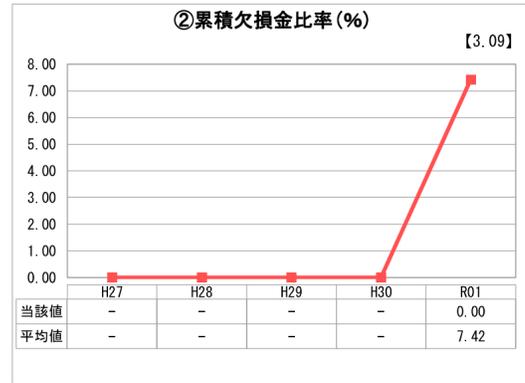
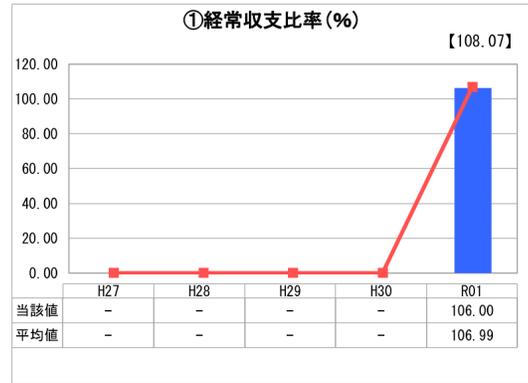
埼玉県 東松山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.98	49.57	78.05	2,035

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
90,348	65.35	1,382.52
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
44,710	9.98	4,479.96

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

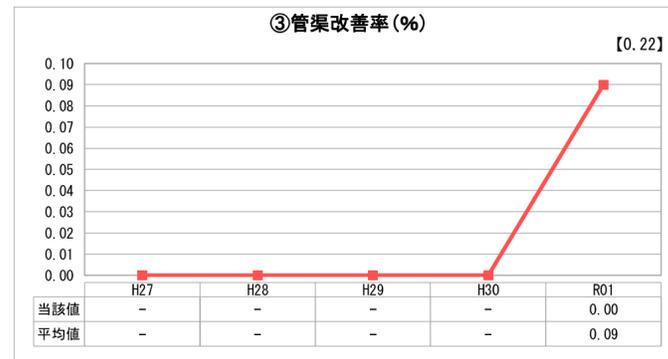
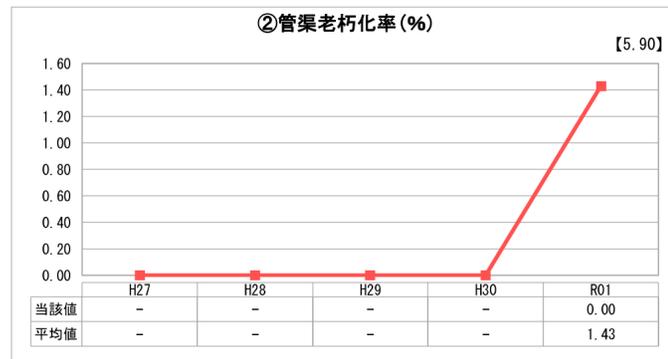
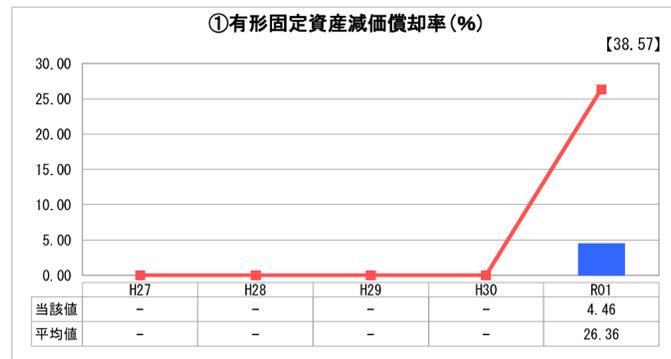
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
今年度は100%を上回っているが、今後の更新投資等に充てるため引き続き財源確保に努める。
- ②累積欠損金比率
該当なし
- ③流動比率
今年度は100%を下回っており、その主な要因として今年度地方公営企業法を適用したため、現金の保有が少ないことにある。
- ④企業債残高対事業規模比率
下水道事業開始当初の借入について償還が終了しつつある状況であり、類似団体の平均値を下回っている。
- ⑤経費回収率
今年度は100%を上回っており、汚水処理費用が下水道使用料で賄えている。
- ⑥汚水処理原価
類似団体の平均値を下回っているが、今後、汚水処理費の増加が見込まれるため、それに対する財源確保に努める。
- ⑦施設利用率
類似団体の平均値を上回っている。今後、未整備区域の解消を進めることで更なる利用率の増加が見込まれる。
- ⑧水洗化率
類似団体の平均値を上回っている。今後、下水道整備を進めるにあたり、速やかな接続を促進し100%を目指していく。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体の平均値を下回っているが、ストックマネジメント計画や長寿命化計画等をもとに資産管理をしていく。
- ②管渠老朽化率及び③管渠改善率
該当数値はないが、ストックマネジメント計画や長寿命化計画等をもとに資産管理をしていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

地方公営企業法を適用して初めての決算を迎えたが、経常収支比率及び経費回収率ともに100%を超えており、下水道使用料等に賄えていることが分かる。また、管渠老朽化率及び管渠改善率ともに0%であることより、健全かつ適正な事業運営がなされていると判断できる。

今後は耐用年数を超える資産が発生することによる更新事業費等の増加及び人口減少等に伴う使用料収入の減少が予想される。今年度策定する経営戦略をもとに、収益性を確保し、将来にわたり持続可能で安定した事業運営を図る。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。